

全国知事会
「道州制に関する基本的考え方」に関する意見

奈良県知事 荒井 正吾

道州制の議論にあたっては、地方分権の徹底、国と地方の役割分担の抜本的見直し、中央省庁の解体再編を含めた中央政府の見直し、自主性・自律性の高い地方財政制度の構築などの基本原則が前提にならなければならない。これが確実に担保される見込みがない現時点において、道州制をいかに進めるかという方法論のみが先行することは地方分権の観点からみて大いに懸念がある。

また、我が国が直面している「少子高齢化」「地域経済のグローバル化」に対応するためには、形ではなく地方の「機能」をどのように充実させるかが最も大事なことだと考える。

地方分権は必要であると考えますが、先に述べたことを十分検討したうえで、根本的かつ構造的な議論が必要であると考えます。

平成24年11月15日